



発行所

関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者

事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp

発行日
平成24年1月31日

Vol.55



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 関 誌

もくじ



●「2012年を迎えて」齊藤昭一理事長	2
●新年賀詞交歓会を開催	3
●技術研修会を開催	4
●技能検定実技講習を実施	5
●組合員・賛助会員懇談会開く	6
●3団体懇談会を開催	7
●4団体協議会を開催	8
●第15回大阪管材展に出展	9
●配管技能コンテストに参画	9
●日管連青年部 全国大会開催	10
●中央会から「優良組合」受賞	11
●特別寄稿(高井史郎・前理事長)	12
●理事会 議事要旨	13
●登録配管基幹技術者講習会を開催	14
●「下請」取引ニュースファイル	14

2012年を迎えて

やりがいある業界めざす



理事長 齊藤 昭一

年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。平素は、組合活動へのご協力に対し心よりお礼申し上げますとともに、本年もご支援のほどお願い申し上げます。

昨年、未曾有の被害を生んだ東日本大震災により、被災された全ての皆さんに心からお見舞い申し上げます。そして一日でも早い復興と皆さまの安心を心より祈念します。

さて、関西経渉においては景気の底を打ち、ようやく回復の芽が出てきたと耳にする機会が増えたのではないかでしょうか。慢性的な景気低迷が続きましたが、本年は大型物件をはじめ現場が本格稼働し、活気ある一年になることを期待しています。

政治においても昨年は、大阪府・大阪市が新体制になり、役所内部の改革からスピード感を持って取り組むことを受け、期待の風が吹いたように感じます。2012年は変化の年になるといわれていますが、世の中の景気に任せていたら遅れを取ります。われわれも今を見つめ直し、今からできることを、スピード感を持って積極的に行動に移すことが大切と考えています。

その実践の一環として当組合では、将来を担う若者が

楽しく働き、希望の持てる業界になるよう「登録配管基幹技能者認定制度」を創設して現在1881名を認定し、教育・訓練などを定期的に開催してきました。本年はさらに力を入れて技能者の育成に取り組んでいきたいと考えています。

技術向上はもちろんのこと、訓練の場を通じさまざまなお情報交換や人との繋がりを持てる有意義な時間になるよう取り組んでいきます。

近年は、工期・コストが厳しいことに加え、安全についても年々求められることが厳しくなっており、つい厳しいことばかりが頭に浮かんでしまっていた訳ですが、本来楽しくやりがいがある業界です。故 松下幸之助翁は「物に魂を与えたものが商品」であるといわれていましたが、本来「現場に想いを入れたものがお金をもらえる配管」だったのではないですか？ 初心に返り、楽しく、やりがいがあるモノ創りの業界にしたいと思います。

未来を創る多くの人が集まり、今後ますますわれわれの業界や世間、そして皆さまの会社や家族の幸せを祈願いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。



ばと思います。

とはいっても、「画

龍点睛」（絵の龍に睛（瞳）を書き込んで命を与えることから、僅かなことを加える

ことで物事を成就させること）のその『点睛』をしなければ何にもなりませんし、龍頭蛇尾（始めは盛んであるが、終わりが振るわぬこと）では困ります。力強く、一步

きたいものです。

龍・アラカルト

今年は「辰年」——辰龍はラクダの頭を持ち、角は鹿、首や腹や尾は大蛇、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛、そしてグワツと見開いた目は鬼だそうです。二千年前、中国で生まれ、西洋に伝わりドラゴンとして悪の象徴となりましたが、わが国に伝わった龍は雲・雨・水をつかさどる「龍神さん」になりました。

絶大な力を持ち、神様でもある龍は、ことわざでも勢い盛んなものが多くあります。「飛龍乘雲」（ひりゅうじょううん）は英雄が時に乗じて勢いを得ること。「龍に翼」は、もともと強い龍に翼を与えれば無敵となることから、勢いの強い者にさらに威力を加えることのたとえです。今年は、龍にあやかつて飛躍の年になれ

元気よく「辰年」スタート

新年賀詞交歓会開く

組合の新年賀詞交歓会は1月26日午後5時30分から大阪・中津駅近くのホテルコムズ大阪で開催し、賑やかに新年の挨拶を交わして2012年の門出を祝いました。

新年賀詞交歓会には関連団体や教育機関、組合顧問などからの来賓、組合員、賛助会員など合わせて60余名が出席し、庄司真之副理事長の司会で進められました。

年頭挨拶に立った斎藤昭一理事長は、「組合事業に対する協力にお礼を述べるとともに、「まだ景気は冷え込んでおり、気候も今年の冬はとくに寒いと予想されている。なにはともあれ体が資本であり、健康に留意して元気よくスタートし、活気ある一年にしよう」と呼びかけました。



年頭挨拶を述べる斎藤理事長

国の中同業者団体で唯一開催している配管技能コンテストについて触れ、「コンテストに皆様の絶大なるご協力をいただき、心からお礼を申し上げる。このコンテストを全国の多くの団体に波及するよう努力していく。今後とも皆様のご協力をたまわりたい」と述べました。

大阪府中小企業団体中央会の西田泰雄・労政調査部長の発声で乾杯したあと、賑やかに交歓しました。宴半ばには賛助会員が1社ず



西田氏の発声で乾杯

来賓紹介に続いて、大阪空気調和衛生工業協会の春木雄一副会長が来賓を代表して挨拶。春木氏は「私ども建築設備業界は技能士の育成を最重要課題としている。そうした中、関西配管組合さんは配管技能士や登録配管基幹技能者の育成に熱心に取り組まれておられ、敬意を表する」と述べました。さらに春木氏は、同協会が全

つ壇上で自社PRを展開するなど賑やかに交流し、また自慢の喉を披露するカラオケも交えて大いに盛り上りました。

大阪府立守口高等職業技術専門校の六辻省吾訓練課長が挨拶に立ち「関西配管組合さんほど1級技能士の養成に力を入れている団体ではなく、教育機関として感謝申し上げる。技術の養成は人間の養成にもつながり、引き続きご協力をいただきたい」と述べ、最後に、玉川義光副理事長が「これまでに育ってきた1級配管技能士は500人を数え、今後の活躍に期待とともに、業界の発展にも希望を持ちたい」と述べ、同氏の音頭で威勢よく大阪締めを行い、今年の健闘を誓いました。



春木氏が来賓挨拶



玉川副理事長の音頭で威勢よく大阪締め

レッキスで技術研修会開催

手動ねじ切りのコツ習得

シーケー金属／レッキス工業 の新商品・新工法知識も学ぶ

組合は、12月3日に大阪府東大阪市のレッキス工業・花園工場で1級配管技能士検定に向けた技術研修を実施しました。今年度の技能士検定に備えて12月中旬開催の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予習を兼ねて手動ねじ切りのコツを習得するとともに、シーケー金属とレッキス工業の新商品・新工法の最新情報を学びました。

この研修会は毎回、レッキス工業の全面的なバックアップにより実施され、今回で12回目。この日も土曜休業日にかかわらず同社幹部・技術スタッフが出勤して研修をサポートしてくれました。

研修会には講習生約30名が出席。冒頭、玉川義光教育情報部会長（副理事長）はレッキス側にお礼を述べるとともに、「配管技能の最高資格である登録配管基幹技能者は現在2000名に届いていない



慣れない手動ねじ切りに挑戦



円内は受講者を激励する玉川副理事長

が、3年後2500名、4年後には国土交通省が活用に本腰を入れるとしている3000名が目標。今日の研修はその登録配管基幹技能者資格取得の前提となる1級配管技能士に向けてのものであり、ぜひとも1級技能士の資格を手に入れ、さらに基幹技能者をめざして当業界の発展に力を注いでほしい」と期待を込めて激励しました。

研修では、技能検定に必須のパイプねじ切り「手動ねじ切り」に挑戦しました。受講者は日常現場ではほとんど経験することのない手動のねじ切りにとまどいながらも挑戦し、そのコツを習得していました。

このほか、シーケー金属の新商品・新工法の紹介があり、同社関



転造ねじ切りの実演



レッキスミュージアム見学

西支店の村田英数課長がプレシール継手、透明被覆継手、パーフェクトロック、フレア配管システムの商品特性と工法を紹介しました。また、レッキス工業からは、普及が拡大しつつある「転造ねじ」について大西規夫氏が加工実演を行い、配水用ポリエチレン管用の融着工具を西仲学氏が紹介しました。さらに、同工場に併設された「レッキスミュージアム」でパイプマシンをはじめとする各種配管工具・機器の歴史などを学びました。



シーケー金属による商品・技術研修

技能検定対策の実技講習実施

南大阪高等職業技術専門校で2日間

平成23年度の1級配管技能検定(24年1月)へ向け、組合では12月17日(土曜)と18日(日曜)の2日間にわたり、大阪府和泉市テクノステージの大坂府立南大阪高等職業技術専門校で実技講習を行いました。



「材料取り」の講習

この講習会は12月3日にレッキス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、今回は29名の受検予定者が受講しました。講習は当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後5時まで昼食をはさんでびっしり行われました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、坂元日出海講師による「材料取り・ペーパー



テスト」の講習(座学)が行われ、配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題が実施されました。

午後は実技講習となり、玉川義光副理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。この中で玉川副理事長は組合が独自に作成した「実技テキスト」に基づき、詳細な作業手順を説明するとともに、作業のコツなどを披露しました。続いて、菅野泰行指導員、池成信夫指導員が手動ねじ切りや溶接の模範実技・指導をそれぞれ行ったあと、実技講習に入りました。

会場では、各指導員が受講者の間を細かく巡り、配管作業の指導に当たる中、受講者は技能検定に欠かせない手動ねじ切りや接着接合、配管組立などに汗を流して取り組みました。

2日目は、午前中に一部の人は材料取りの補習を受け、あとの人は実技講習を行い、午後は受検本番と同じ時間で課題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品作製に真剣な面持ちで臨んで仕上げ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出しました。



指導員による溶接の
模範実技



実技の作業手順や要項の説明



指導員の入念な指導のもと実技講習に励む



組合員・賛助会員懇談会を開催

受注動向と見通しで意見交換

組合員、賛助会員（メーカー・流通）の合同懇談会を12月1日に組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催しました。出席者は約30人と多くの組合員、賛助会員が参加し、庄司真之副理事長の司会で市場動向と見通し、配管材価格の動向などについて熱心に意見・情報交換しました。

懇談会では、斎藤昭一理事長が「当業界の仕事は増えているが、価格は逆に下がり気味で、採算に乗るものはきわめて少ない。割に合わない仕事は受けないという強い決意が必要だ。今日は大いに情報・意見を交換し経営に役立ててほしい」と挨拶したあと、受注状況と今後の見通しについて話し合



ました。その背景として「バブル期に建築業界に入った技術者が近年、中堅になっているが、そうした人たちは多忙の先輩からきっちり指導を受けることなく育ったせいで経験不足、知識不足となっている」などの声も出されました。また、「サブコンもバブル崩壊以降、受注競争に打ち勝つため、営業重視に偏

はやや弱含みで推移するとの見方が大勢でした。一部の配管材の原料となるグラスウール類がこのところ高騰している現状が報告されたほか、中国で生産している製品については現地の人件費の高騰が続いていることにより、長期的にじりじりと値を上げる製品も出てくるのではないかといった意見が出されました。た



いました。この中では、空調、給排水、冷媒の各工事現場とも人手不足にある現状が報告されました。また、建物の躯体工事の遅れが後工程にしづ寄せとなって配管工事などの工期を短くし、苦慮する現場の実情が明らかになりました。

一方、派遣社員を中心にサブコン技術者の施工図の不備が配管材などの不足・過剰を招き、現場を混乱させている情報が多く出され



った結果、技術者の育成がおろそかになり、技術レベルを下げているのでは」といった見方もありました。

材料価格については、銅管価格の高騰が話題に上りましたが、出席メーカーからは「投機筋の動きが気になるが、今後、極端な投機が行わなければそう高騰するとは思えない」などの声がありました。また、鉄関係

だ、全体的にみれば、配管材の価格は今後安定した状態が続くとの見方で一致しました。

最後に玉川義光副理事長が「組合は技能者の育成、技能の伝承を柱の一つにしており、皆様のご協力をお願いしたい」と述べました。このあと、近くのグリルで懇親会を催し、忌憚のない意見を出し合うなど賑やかに交流しました。

第30回三団体懇談会開く

基幹技能者活用で意見交換

当組合、近畿保溫保冷工業協会（保溫保冷工事、会長細見義征氏）、近畿空調工事業協同組合（ダクト工事、理事長増田岳史氏）は、11月17日午後3時から5時まで当組合事務局近くの三栄ビル会議室で第30回懇談会を開催し、登録基幹技能者の活用、材料価格、業況、サブコンサイドへの「適正価格契約」要望書提出について話し合いました。

懇談会には保溫保冷から5人、ダクトから5人、当組合から8人の計18人が出席。開催当番幹事の保溫保冷・細見会長が「心を通わせて意見を交換し真の状況を掴んでほしい」と挨拶し、同・榎英寿副会長の司会で進行しました。

登録基幹技能者活用の現状については「一部のゼネコンでは登録基幹技能者の優遇制度を立ち上げるなど評価する姿勢もみられるが、まだまだ認識は低く、サブコンの動きは鈍い」とする状況報告が大半を占めました。このため、機会を捉えて、基幹技能者の活用を呼びかけていくことを申し合わせました。また、国土交通省が『登録基幹技能者が各職種で3000



当組合からの出席者



人程度、全国都道府県に存在するようになれば同技能者の現場常駐を明記する』などとしていることに対し、現在、関連3職種のうち最も多い登録配管基幹技能者でも2000人に足りず、3000人は相当気になる見通しで、ダクト、保溫保冷の登録基幹技能者にいたってはそのメドもつかない状況であることなどから「制度を立ち上げた国交省に要望陳情すべき」とする意見が多く出されました。一方、「登録基幹技能者の活用に積極的な長崎県の事例とその成果を調べて今後の活用の資料にしたい」などの意見もありました。

材料価格については、保溫保冷からグラスウール材が高騰していることが報告され、ダクトからは主材料の鉄板がここ1、2年でかなり高騰したが、つい最近はやや値下がり傾向にあることが報告されました。配管では、多くの材料がサブコン支給であることから材料高騰などの影響は限定的であることが述べられました。

受注単価・工賃については、各

業界とも低迷している現状が明らかにされ、「常識はずれの安値は勇気をもって断るべき」「一定の発注先に偏っては危険。1社からの受注は全体の15~20%にするよう客先の幅を広げることが必要」などの意見が出されました。

最近、同業者間で自己破産、廃業など経営破たんする会社が目立ち、3業界とも将来にたいする不安感や危機感が高まっていることから、サブコンなど発注者に「適正価格契約」を訴えるため、要望書を申し入れることとしました。席上、「適正価格契約へのお願い」と題する要望書案の検討を行った結果、出された訂正、変更意見をもとに、後日、正式文書を作成し、3団体の代表者名でサブコン団体である大阪空気調和衛生工業協会に提出することとしました。なお、次回の三団体懇談会は2012年3月12日にダクトの当番幹事で開催することとしました。

このあと、懇親会を催し、その席上でも市場動向などで活発に意見交換しました。

4団体協議会を開催

サブコン側へ「適正契約」要望書を提出

保険未加入業者問題でも意見交換

当組合、近畿空調工事業協同組合（ダクト工事、理事長増田岳史氏）、近畿保温保冷工業協会（保温保冷工事、会長細見義征氏）と大阪空気調和衛生工業協会（大空衛＝サブコン団体、会長大平哲也氏）で構成する4団体協議会の第8回会合が11月28日に大阪市中央区の大空衛事務局会議室で開かれ、大空衛側に配管・ダクト・保温保冷団体の代表者連名による「適正契約」の要望書を出しました。また、建設業の保険未加入問題についての情報・意見交換を行ったほか、現場で生じる諸問題も話し合いました。



最初に、配管・ダクト・保温保冷の団体代表者連名による「適正価格契約へのお願い」と題した要望文を大空衛に提出しました。要望書では3業界の置かれた厳しい状況を説明し、「今後とも法令を順守し、各種保険料を負担し許可建設業者として社会的責任を果たしていく。これらの費用を加味した適切な価格で組合・協会構成員会社へご発注をお願い申し上げます」と訴えました。

意見・情報交換では、建設業界

における医療保険・雇用保険など社会保険未加入業者問題を話し合いました。この問題については、国土交通省が2011年6月に打ち出した「建設産業の再生と発展のための方策2011」（方策2011）で、優良業者・有能技能者の育成とともに、不適格業者の排除の仕組みを構築する方針を打ち出し、関係法令により義務付けられている社会保険の未加入者を不適格業者としています。「方策2011」では、保険未加入企業の排除に際しては建設産業全体としての枠組みを整備し、行政、元請企業及び下請企

者を排除する方針」と情報収集した結果を伝え、配管関連工事3業界の実情を話すよう促しました。これに対し3業界からは「団体所属企業では未加入ではなく、協力業者など下請まではほとんどが加入していると思うが、その先の下請までの実態は把握できない。3、4人規模の業者の多くが未加入業者だと思う」といった意見が大勢を占めました。

一方、保険未加入業者排除は、不良業者の排除とともに、職人の保護を念頭に置いたものであるとし、「未加入業者に保険加入を強制すれば、保険の業者負担分を給料から差し引く業者が現れるかもしれません、そうなれば個人保護の施策が逆効果になる」とする意見が多く出されました。これに関連して「未加入業者排除の強権が発動されれば建設現場は大混乱に陥る」として、業界の実情を国や自治体、工事発注元に訴えるとともに、建設業界全体で保険未加入業者問題の調査研究を続けていく必要があるとの意見で一致しました。

現場における諸問題では、「現場ごとにサブコンのヘルメットを着用しなければならず、その管理や負担がきつい」とする意見が3工事業界から出されました。これについては「ヘルメットにマグネットシールなどで社名を表示するか、薄手の社名入りベストで代用できないものか」などの要望意見がありました。

第15回 大阪管材展に出演

組合の存在・活動を紹介



テープカットに臨む当組合の
斎藤理事長（左から4人目）



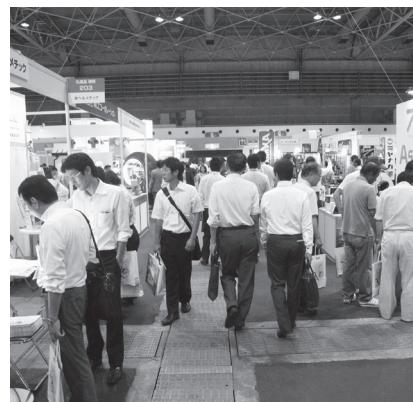
来場者に組合の存在をアピール

管工機材と設備機器を一堂に集めた「管工機材・設備総合展 OSAKA2011」（第15回大阪管材展＝大阪管工機材商業協同組合主催）が昨年9月8～10日の3日間、大阪・南港のインテックス大阪で開催され、当組合は後援団体として参画するとともに、ブースに出演して組合の存在・活動などを幅広い層にアピールしました。

今回も前回に引き続き「どーん」と発信！「流体テクノロジー」をテーマに開催され、延べ1万3534人の入場者で賑わいました。地球環境保全や住宅・ビル・工場などの快適環境づくりに貢献する広範な管工機材・設備機器が勢ぞろいし、最新情報が発信されました。

当組合は、事業活動などを紹介したパネルを展示し、また事業内

容や組合概要を掲載した資料などを配布したほか、配管技能士の実技試験用のモデルも実物展示しました。さらに、三進興業所の協力により、来場者が興味を示すと思われる電解水生成機も展示し、ブースへの見学を勧誘しました。会期中、組合役員や青年部員が数人ずつ交代でブースに詰めて来場者の応対に努めました。



賑わう会場

大空衛主催 第3回配管コンテストに参画

組合は、8月20日に東大阪市の大阪府立東大阪高等職業技術専門校（テクノセンター東大阪）で開催された大阪空気調和衛生工業協会主催の第3回配管技能コンテストに選手を派遣するなどで参画しました。

コンテストはこれまで同様に現場の第一線で活躍する配管技能者を「一般の部」、建築設備関連の学科を履修中の高校生を「高校の部」として実施されました。26人の一般技能者と18人の高校生が参加し、一般は1級技能士検定レベ



懸命に課題作品の制作に臨む

ルの課題作品制作（制限時間3時間）に、高校生は同3級レベルの課題作品制作（同2時間30分）に臨みました。

一般の部では岩本浩氏（岩本工業所）が優勝、岩本工業所は前回に続き連覇となりました。準優勝



一般の部上位入賞者（前列）

は松本幸久氏（豊新設備）、3位は川口晃広氏（三神工業）でした。高校の部では松尾建太朗君（東住吉工業高校）が接戦を制して優勝し、準優勝は白石一平君（彦根工業高校）、3位は山本誠也君（東住吉総合高校）でした。

日管連青年部会

岐阜・名古屋で全国大会開催

工場見学と地域情報交換



参加者（森松工業で）

当組合の上部団体・日本配管工事業団体連合会（日管連）青年部は11月11日、岐阜県にある森松工業見学会と全国地域業況の情報交換会を柱に全国大会を開催しました。

大会には全国7地区団体から約60名が参加、当組合から朝倉博昭・青年部会長をはじめ10名が出席しました。昼過ぎ名古屋駅に集合した一行はバス2台に分乗し森松工業（本巣市）を訪問。同社はステンレス製のタンク、圧力容器、配水池、プラント用タンクなどを手掛ける有力メーカー。応力腐食割れを生じないステンレス材質・SUS446を初めてストレー

ジタンクに採用した（昭和53年）ことで知られ、ステンレス材で接水部の腐食を防止し鉄材で強度を確保する「複合材」を開発し経済性と短納期で市場のニーズに対応しています。近年は上海の製造販売拠点（グループ会社）をテコに売り上げを伸ばすなど順調に業容を拡大しています。

青年部一行は、本社工場とその近くの本巣工場でパネルタンクや圧力容器の加工、組立工程などを見学しました。コイル状のステンレス材を水平に正確に伸ばすレバー、円板パネルを半球形状に曲げる独創的なマシン、ステンレス板をスピーディに切るNC水プラ

ズマ切断機など随所にコストダウンと精度を向上させた生産工程をつぶさに見て回りました。最後にビデオで同社の概要紹介を受けたあと、質疑応答となり、ステンレス製品の耐久性、工場美化の方法、従業員の採用・育成などの質問に同社技術幹部が詳しく答えました。

見学を終え、バスで名古屋に向かう車中で7地区の代表者が地区的業況報告・活動報告を行いました。また、夕刻からは名古屋市内で懇親会を催し、日管連の相馬辰夫会長、中部配管協組の窪田俊昭理事長を交えて賑やかに交歓し親睦を深めました。



会社の概要説明と質疑応答

各地区の業況・活動報告のあらましは次の通り。

◇北海道「春先までは（配管職人の）人余りがみられたが、最近、病院などを中心に改修工事が増えて秋口以降、人手不足となりつつある」

◇東北＝「大震災復旧の仮設住宅は予定通り建ったが、ライフラインは完全でない。震災から8カ月が過ぎ、片付けがほぼ終わったところで本格復興はこれから。自動車メーカーの増設工事もあって建設業界はバブル期のような様相を呈し、内装と配管は人手不足となっている。」

◇関東＝「各地の高層建築のほか、東京駅や渋谷駅周辺の再開発工事で物件が増え、内装業者、配管職人の東北移動と相まって人手不足が顕著。躯体工事の遅れで配管工事の工期が短縮され、苦慮している」

◇中部＝「病院、工場、自動車関連の増設・改修工事が重なって



タンクの製造工程などをつぶさに見学

物件が増加し、職人の手当も付かず、仕事が追いつかない。ただ、受注金額はいぜん横ばいから弱含み」

◇関西＝「春先まで業界は冷え切っていたが、最近ようやく忙しくなってきた。青年部の活動としては毎月の例会での研修、情報交換のほか、年1回の事業所見学を行っている」（このほか、会員から工場のプラント設備リニューアルをターゲットにした提案事業、海外風力発電企業とタイアップした環境関連事業展開の事例発表）

◇中国＝「広島駅周辺の再開発事業、岩国の中核関連事業などで忙しい。仕事はあるけれど人手不足で消化できない。また、労務単価が上がって苦慮している。ただ、2012年は民間工事が減りそうで公共工事がないと苦しい」

◇九州＝「春までは仕事が少なかったが、現在、大型物件は少ないにせよ忙しくなってきた。辞めしていく職人さんもあって人手が足りない。青年部の活動としては親会との意見交換会を通じて情報収集を図っている」

第53回 中小企業団体大阪大会

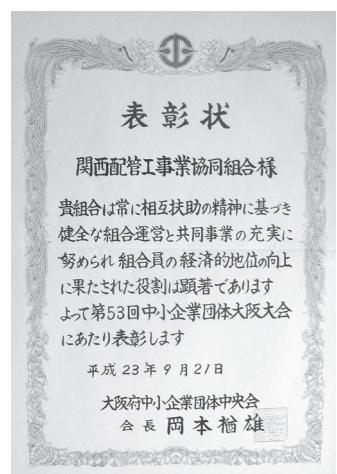
当組合が優良組合として受賞

大阪府中小企業団体中央会主催の第53回中小企業団体大阪大会が9月21日に大阪市中央区のマイドームおおさかで開催され、当組合は、中小企業団体の発展に貢献した優良組合として表彰を受けました。

大会には、府内の中小企業の代表らが出席。中小企業対策費の大枠増額や東日本大震災で被害を受けた中小企業の再生を求める「大



阪府中小企業再生緊急アピール」を採択しました。また、府内の中小企業団体の発展に貢献した優良組合・役員に対する表彰も行わ



れ、知事表彰、中央会会長表彰など20の団体と個人126名が受賞。当組合は中央会会長表彰の優良組合の部で受賞しました。

特別寄稿

長年にわたり副理事長、理事長を歴任され、組合・業界の発展に貢献された前理事長高井史郎さんは今年度、役員を降板されました。そこで本誌では、高井さんに組合の草創期からの思い出話などの寄稿を要望し、高井さんに文章を寄せていただきました。



前理事長 高井 史郎

関西配管工事業協同組合の前身である関西配管工事業協会の設立の話が出たのは平成3年11月頃であったと思います。社会においてはバブル経済により大変繁忙な時期がありました。まず、大阪市北区中崎2丁目の親邦ビル（初代理事長となる田中久睦氏の田中管工事株社屋）にて約15社のサブコン一次下請け業者の方々が集まりました。

当時は多忙を極める中、発注元からの単価は管理されている一方、忙しい職人さん達の単価引き上げ要求は厳しく、経営困難な状態になりました。そこで繁忙情報や受注単価、資材単価の情報交換を行うために翌平成4年6月、任意団体・関西配管工事業協会が発足しました。協会の名称については「近畿」にしようか、「関西」にしようかと考慮の末、「関西」とすることにしました。

こうして発足をみたのですが、

当初の1~2年の間は、多くの協会員から団体の力をもって発注元への単価改定の要求貫徹を求める意見が多く、執行部の考えと違った方向へ向かい、退会の人達も出て、発足間もなく結束力の不足を強く感じました。副理事長を拝命していた私は田中理事長とも相談し、バブル景気の影も見え始めたことから、協会の目的を長期を見すえたものとすることで合意しました。

田中理事長は異常と思うほど技術の向上、人格教育に熱心で、独自で技能者の学校を開校したらどうかなど真剣に考えておられました。当面、国家資格の配管技能士を増やすこと、その教育のために府の助成を受けようと思えば法人格を取ることを重点目標としました。これらの実現には時間と費用がかかること、それに当時の協会員の意識を変えることの困難などを承知の上で決定でした。

法人化への賛否両論の中、田中理事長は個人的にも多くの費用を負担しながら、ついに平成8年9月、中小企業等協同組合法に基づき、任意団体から「関西配管工事業協同組合」へと移行、法人化しました。

このことは全国的にも影響を与えました。すでに平成6年、各地区組合の全国連合組織・日本配管工事業団体連合会が設立され、当団体も加入していました。東京においては連合会を「社団法人」として法人化することに強い要望がありましたが、一方政府の方針では特殊法人は許可

しない方針が出ましたので断念しました。しかし、当時全国の7つの同業団体の中で法人化していた北海道は別として、関西に続いて東北団体、中部団体など相次いで法人化が進みました。

田中理事長の持論は、「交渉」ではなく「腕で稼ぐ」団体にしようというものでした。具体的には発注元から、「このような技術を要する仕事は関配協の会員である誰々に頼まなくては仕方ない」というような指名を受ける立場になることでした。「そのためにも高度な技能を有し、国家資格を取得した技能者を多く持つ団体を作り上げるべきである。単価は後からついてくる。経費が必要なら私が出す云々」と言わっていました。

具体的に良い事例、実際にできること、できないこと——色々と意見はありましたが、その言葉に励まされ、組合運営が経済的にも苦しい中、各事業計画を継続し2級配管技能士講習に引き続き平成11年には1級配管技能士養成団体として大阪府より認められました。

各技能士講習会を行う一方、労災保険事業組合を設立し労災保険特別加入事業をも行うようになりました。その間、私は中小企業組合士の資格を取得し、配管工事組合の運営に携わっていたこともあり、任意団体からいち早く法人化し、永久に健全な安定した運営ができるよう規則・規約の整備、理事会運営などに傾注してそれらを定着させることに務めました。特に、山

中氏（現事務局長）を事務局に迎えたことは大きな安心をもたらしました。

そうした中の平成12年、突然田中理事長より、自社の後継者問題に大変苦慮しているとの話があり、同時に廃業をも考えているとのことに驚きました。私は、田中さんが当初から組合運営に直接間接に計り知れない惜しみない援助を尽くしてこられたこと、組合の存在の全てといつても過言ではないと思っていることを考えると、

返答に困窮しました。翌平成13年5月、私は理事長職に就任しました。10年近く拝借してきた田中さんの社屋（組合事務局・会議室）を後ろ髪引かれる思いで、大阪管工事会館へ移転をしました。

私が組合運営に携わり、特に法人化後、長期にわたる不況で組合員数の減少などに伴い赤字決算も余儀なくされ、楽しい思いは少なかったのですが、同じ思いの中、仕事を投げ打って組合活動に参加・努力してくださった理事役員

の方々に心から敬服と感謝の気持ちをささげたいと思います。私にとって「関配協」を通じ多くの方々と知り合うことができたことは何より嬉しかったことの一つであります。そして現に、組合が後を託した方々の努力により、安定した運営がなされていることは大変喜ばしく、50年、100年後まで組合員のため、業界のため社会のために初期の目的を持って存続していることを願ってやみません。

（高井工業株会長）

理事会 議事要旨

【23年7月】

- ①組合決算関係書類及び役員変更
届提出並びに登記事項完了報告
- ②賛助会員の脱退申し出の件
- ③組合員の脱退申し出の件
- ④新規組合員の加入申込み諾否について=(有)東豊設備・大阪府寝屋川市緑町
- ⑤平成22年度脱退組合員に対する出資払い戻しについて
- ⑥大空衛主催の第3回配管技術コンテスト応募者の推薦について
=組合員から9社・9名の申込
- ⑦第4回サブコン有志一同会・課長会と当組合との勉強会の開催
当番幹事と会場変更について
- ⑧第15回管工機材・設備総合展への出品展示内容検討と役員当番表の作成について
- ⑨その他 (①8月定例理事会の休会②守口技術専門校からの平成23年度テクノ講座受講案内③日管連からの依頼事項「公共建築工事標準仕様書」の改定意見提出④講演会「いま、なぜ技能五輪に挑むのか」の開催案内)

【23年9月】

- ①大空衛主催の第7回4団体協議会の出席報告
- ②第4回サブコン有志一同会・課長会と当組合との勉強会出席報

告=7月21日に開催され、当組合から6名出席

- ③大空衛主催の第3回配管技能コンテスト結果報告
- ④日管連平成23年度第6回定期総会・理事会出席報告=7月13日に福岡市で開催され、当組合から5名が出席
- ⑤第15回管工機材・設備総合展の小間割決定配置図と役員当番表の確認について
- ⑥技術研修会の開催要領作成について
- ⑦その他 (①平成23年度登録配管基幹技能者講習案内書送付②大阪府中央会による当組合の優良組合として会長表彰受賞)

【23年10月】

- ①日管連事務所移転報告
- ②第15回管工機材・設備総合展出展終了報告=9月8日から10日の3日間、インテックス大阪で開催
- ③平成23年度認定職業訓練配管科1級技能士コース実施計画作成について
- ④平成24年新年賀詞交歓会開催要領作成について

青年部会開催に伴う当組合からの出席者について=11月11日に名古屋市で開催され、当組合から11名出席

⑥平成23年度1級配管技能検定受検対策実施講習開催要領作成について

⑦第2回組合員・賛助会員合同懇談会開催要領作成について

⑧その他 (①11月定期理事会開催日の変更②近畿空調組合からの紹介業務:給油カードの案内)

【23年11月】

- ①平成23年度上半期分(4月~9月)組合会計収入支出状況報告
- ②日管連理事会出席報告=11月2日に東京で開催され、当組合から3名出席

③平成24年度認定職業訓練配管科1級技能士コース実施計画作成について

④平成24年新年賀詞交歓会開催要領作成について

【23年12月】

- ①第30回三団体懇談会出席報告
- ②大空衛主催の第8回4団体協議会出席報告
- ③組合員からの脱退申し出と員外役員選出について
- ④第2回組合員・賛助会員合同懇談会運営順序の打合せ

登録配管基幹技能者講習を開催

登録配管基幹技能者を認定する平成23年度講習が近畿地区では1月26～28日の3日間、兵庫県三田市の三田建設技能研修センターで開催されました。

登録配管基幹技能者講習は、国土交通大臣登録講習として、日本空調衛生工事業協会（日空衛）、全国管工事業協同組合連合会（全管連）、そして当組合の上部団体・日本配管工事業団体連合会

（日管連）の3団体が行っているものです。今年度の登録講習は第1回が近畿地区、第2回が関東地区（2月2日～4日、東京都小平市）、第3回が北海道地区（3月8日～10日、札幌市）の全国3会場で開催されます。

近畿地区会場では、当組合から玉川義光副理事長、庄司真之副理事長、中野広造理事、小阪武司理事の役員4人が講師を務め、山中

淳市事務局長も管理員として出席しました。今回は会場定員70名のところ85人が受講することになり、研修センターのいつもの会場のほかに別の会場を設けて2つに分かれて行われました。当組合の講師は3日目の講習を受け持ち、「OJTとその進め方」と「ケーススタディ」を玉川、庄司の両副理事長が担当し、「OJTの実践方法」と「OJTの実践演習」を中野、小阪両理事が担当しました。

なお、合格発表は3月下旬に行われる予定です。

「下請取引」ニュースファイル

国交省の下請取引調査 「元・下」で多くの問題

国土交通省の平成23年度「下請取引等実態調査」（23調査）によると、前年度調査（22調査）に比べ、建設業法に基づく指導を行う必要がないと認められる建設業者（適正回答業者）の割合（同回答率）は大手が中心の大手許可建設業者で増加し全体的に向上しました。しかし、部分的にみると、建設工事を下請負人に発注したことのある業者の適正回答業者率はわずか1.9%と、依然「元・下関係」で大きな問題を抱えていることが浮き彫りとなりました。また、近年クローズアップされている「追加・変更契約」についても、追加・変更工事に着手する前に契約している業者は、知事特定・一般建設業者で4割程度にとどまり、適正な時期に契約していない業界の実態を示しました。

「23調査」では、険しい「元・下関係」がうかがえます。元請・下請を問わず建設工事を下請負人に発注したことのある1万1956業者のうち適正回答業者は226業者（適正回答業者率1.9%）にとどまっています。大臣特定建設業者の適正回答業者率は14.2%ですが、知事一般建設業者ではわずか0.3%です。資本金が大きい業者ほど適正回答業者率は高いのですが、それでも資本金100億円以上で28.8%に過ぎません。

注文書・請書による場合には基本契約約款を添付するなど一定の要件を満たすことが必要です。大臣特定建設業者では約9割が適正に契約していましたが、知事特定建設業者では約7割、知事一般建設業者に至っては約4割に過ぎません。さらに、知事一般建設業者では16.6%が「口頭」による契約を実施しており、一定の要件を満たした書面による契約が徹底され

ていない状況が浮き彫りとなりました。

追加・変更契約の見積り依頼方法については、「追加・変更契約の内容や提示日が明確な書面により依頼」している建設業者は平均で約4割にとどまり、当初契約の場合と比較すると1割程度低下しています。追加・変更契約の方法については、知事一般建設業者では一定の要件を満たした書面による契約を行っている建設業者は約3割しかありませんでした。

追加・変更契約の時期については、大臣特定建設業者では約6割、大臣一般建設業者では約5割が追加・変更対象の工事に着手する前に契約していましたが、知事特定・一般建設業者では4割程度にとどまりました。

下請代金の支払いの際、正当な理由がないにもかかわらず、長期間にわたり保留金として下請代金の一部を支払わないことは建設業

法上適正ではありません。保留したことがあると回答した建設業者は、大臣特定建設業者および知事特定建設業者で3割を占めました。また、支払保留を行ったことがあると回答した建設業者の9割以上は工事完成後に解除しているとの回答でしたが、一部の建設業者では工事完成後も保留金を解除しないとの回答もありました。保留する理由としては「工事目的物の瑕疵を担保するため」が最も多くありました。

下請負人として建設工事を受注したことのある建設業者1万946業者のうち、元請負人から「不当なしわ寄せを受けたことがある」あるいは「しわ寄せを受けた工事を知っている」と回答した建設業者は1032業者（9.4% = しわ寄せ率）がありました。許知事一般建設業者が最も高く11.7%。資本金規模の小さい建設業者ほど、しわ寄せ率が高い状況でした。具体的なしわ寄せの内容としては「追加変更契約の締結の拒否」が最も高く14.0%、次いで「下請代金の支払保留」が12.8%、「やり直し工事の強制」が12.6%でした。

「発・受」間の法令遵守ガイドラインを策定

国土交通省は、昨年秋、建設業の「発注者・受注者における建設業法令遵守ガイドライン」を策定し、契約当事者である発注・受注者がどのような対応を取るべきか、どのような行為が不適切であるかを明示しました

施主など発注者と請負者など受注者との契約は、建設生産シス



ムのスタートとして位置付けられています。両者間の契約の適正化を図ることは、元請・下請間の契約を含め契約全体について当事者が対等な立場でそれぞれの責任と役割分担の明確化を促進し、適正な施工の確保とともに、発注者である最終消費者の利益にもつながります。

建設業法では、不当に低い請負代金の禁止、不当な使用資材などの購入強制の禁止など契約適正化のために契約当事者が遵守すべき最低限の義務等を定めていますが、これらの規定の趣旨が十分に認識されていない場合では法令遵守が徹底されていないのが現状です。こうした観点から、公共工事、民間工事にかかわらず、発注者と受注者との間で行われる請負契約の締結やその履行に関し、法律の不知などによる法令違反行為を防ぐ対策として法令遵守ガイドラインが策定されたものです。

同省では「建設業法令遵守ガイドライン」（平成19年策定）も併せて活用することにより、建設業での契約全体の適正化が促進されるとしています。

「発注者・受注者ガイドライン」では、建設業法・見積もり条件の提示について、建設業法上違

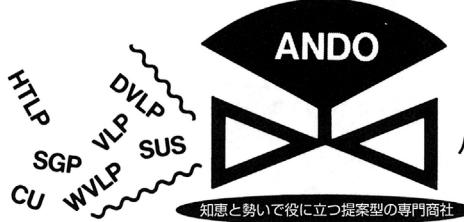
反となるおそれがある行為事例として①発注者が不明確な工事内容の提示など曖昧な見積もり条件により受注予定者に見積もりを依頼した場合②発注者が受注予定者から工事内容などの見積もり条件に関する質問を受けた際、発注者が未回答あるいは曖昧な回答をした場合——をあげています。

書面による契約締結について、建設業法上違反となる行為事例として①建設工事の発注に際し書面による契約を行わなかった場合②建設工事の発注に際し建設業法第19条第1項の必要記載事項を満たさない契約書面を交付した場合③建設工事の発注に際し請負契約の締結前に建設業者に工事を着手させ、工事の施工途中または工事終了後に契約書面を相互に交付した場合をあげています。

元・下請間の契約でよく問題になる追加工事などに伴う追加・変更契約については、建設業法上違反となる行為事例として①追加工事または変更工事が発生したが、発注者が書面による契約変更を行わなかった場合②追加工事または変更工事についてこれらの工事に着手した後または工事が終了した後に書面により契約変更を行った場合をあげています。

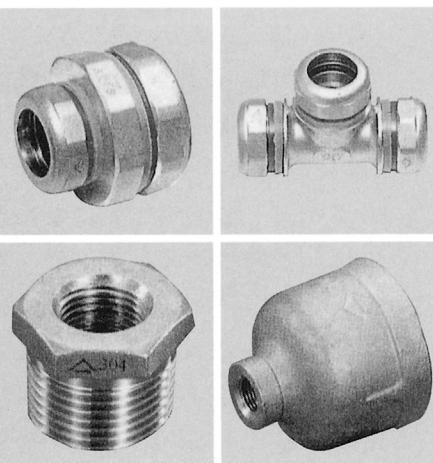
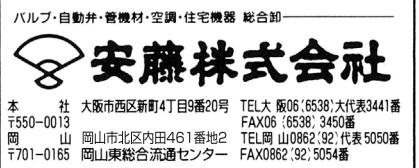
「適正」

をお届けします。



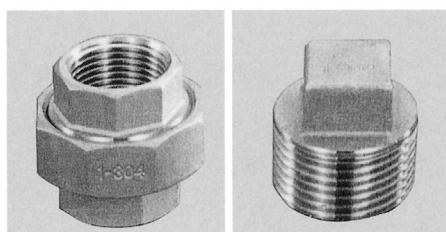
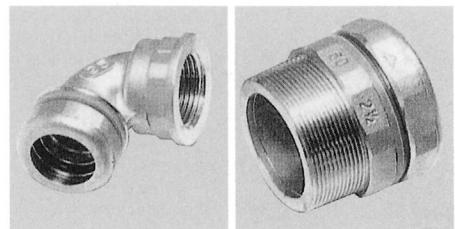
バルブ(BC・FC・コアタイト…)

建築技術の進歩と共に、設備工事における配管施工の技術の革新も大きく進歩しています。安藤株式会社は、多種多様な用途別ラインごとに適正な機種の選択をして、適正な商品をお届けする事を使命と考えております。



ステンレス製品

- メカニカル式管継手
サスフィット 拡管式
- ねじ込み継手



YODOSHI 株式会社 吉年

本社・工場 〒586-8528 大阪府河内長野市上原西町16-1
TEL:0721(53)3121 FAX:0721(54)1814
東京支店 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-11
TEL:03(5297)8221 FAX:03(5297)8222

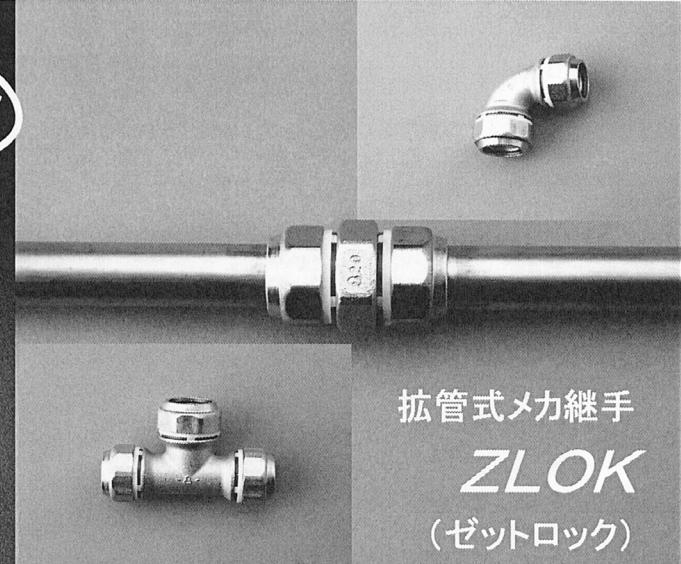
印管継手

給水・給湯・冷温水に!! 2つのSUS管用継手登場!

ワンタッチ式

SUSDAKE(サスダケ)

新製品!



拡管式メカ継手

ZLOK

(ゼットロック)

- 印管継手
- 管端防食管継手 PQWK
- 日立カップリング継手 オメガシリーズ
- 日立密閉型膨張タンクシリーズ
- ウォーターハンマ防止器

日立金属株式会社

関西支店

〒541-0041

大阪市中央区北浜3-5-29(日生淀屋橋ビル)

TEL:06-6203-9704 FAX:06-6202-0730

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

HITACHI